



特 集

特 集

1 コウノトリを再び福井の大空へ

県では、特別天然記念物のコウノトリを自然再生のシンボルと位置づけ、平成23年12月から、兵庫県立コウノトリの郷公園との共同研究として、同公園からつがいのコウノトリを借り受け、越前市白山地区において飼育・繁殖を行うとともに、福井生まれのコウノトリを野外へ放鳥し、福井に再びコウノトリが舞う豊かな自然環境の保全・再生を推進しています。



放鳥されたコウノトリ（平成27年10月3日）



げんきくん

①コウノトリフォーラムの開催

コウノトリの野生復帰の意義の理解を深め、地域の方々と共にコウノトリをシンボルとした自然再生を実現するため、平成27年9月5日に福井県国際交流会館において「コウノトリフォーラム」を開催しました。

本フォーラムでは、越前市、若狭町、小浜市の3つの自然再生団体が、身近に生き物を取り戻す活動報告やパネルディスカッションにおいて、コウノトリをシンボルとした生き物いっぱいの環境が地域の未来につながることを確認しました。また、ニュージーランド在住の環境ジャーナリスト内田泉氏から、国際的な視点でカカポなど希少鳥類の



コウノトリフォーラム

保護等についての先進事例や環境教育の実践が紹介されたほか、元福井県自然環境課長で環境省自然環境局国立公園課長の岡本光之氏からは、福井の里地里山の豊かさの保全を目標としてコウノトリの野外定着を進める地域活動や、安全でおいしいお米づくりが、世界へ向けて誇れると評価されました。

②コウノトリ講習会の開催

コウノトリの放鳥に先立って、兵庫県立大学の迫義人博士を講師としてお迎えし、コウノトリの生態や野生復帰に向けた環境整備、観察方法等を学びました。日本野鳥の会福井県支部や鳥獣保護管理員、自然再生団体等の多数のご参加をいただきました。



コウノトリ講習会

③コウノトリ放鳥

平成27年10月3日、越前市白山小学校においてコウノトリを放鳥しました。関係者や地元住民等500名が見守る中、知事、兵庫県立コウノトリの郷公園の山岸園長、地元の代表等の来賓の皆様のテープカットとともに、放鳥用の箱の扉が開き、昨年生まれた2羽の幼鳥「げんきくん」と「ゆめちゃん」は、秋の快晴の大空へと飛び立ちました。しばらく周囲の様子に戸惑いながらも、大きく羽ばたいた2羽は上空を数度巡回し、参加者からは、2羽の美しい姿に何度も歓声が上がりました。



地元小学校児童達が見守る中で放鳥

ドジョウの放流

放鳥場所となった越前市白山地区は、44年前くちばしの折れたコウノトリ「コウちゃん」が保護された場所で、放鳥当日は、コウちゃんの保護活動を行った当時の白山小学校の先生や子どもたちをはじめ、コウちゃんの救護を行った元福井県職員の林武雄氏、豊岡市でコウちゃんの飼育に尽力いただいた松島興治郎氏も参席され放鳥式典終了後には、白山、坂口小学校の子どもたちと当時の子どもたちが、生き物が豊かな環境が未来へ引き継がれることを願い、コウノトリの餌となるドジョウの放流を行いました。

④コウノトリの観察情報

県では、放鳥した2羽のコウノトリに個体識別用の足環と位置情報を追跡できるGPS発信機を装着しました。また、目撃情報の募集や観察方法などをまとめたリーフレットを配布し、GPSによる滞在位置と寄せられた目撃情報を随時、県のホームページ等で公開し、放鳥したコウノトリを見守っています。



コウノトリリーフレット

⑤コウノトリの県内定着に向けた取組み

コウノトリの定着を目指そうと、県内の自然再生団体や市民グループが活動を進めています。越前市の「水辺と生き物を守る農家と市民の会」、若狭町の「鳥羽ビオトープクラブ」、小浜市の「コウノトリの郷づくり推進会」等がそれぞれ自然再生活動を行っており、各会での活動の情報交換を通して効果的な環境整備に役立てようと交流会が開催されています。平成27年12月18日には、林武雄氏を講師にお招きし、コウノトリの歴史や福井県とのかかわり、今後の展望についても意見交換が行われました。

県では、今後とも、コウノトリを自然再生のシンボルとして、様々な生物が身近に生息できる環境の保全、再生を進めていきます。

2 第10回3R推進全国大会 in ふくいの開催

3R推進全国大会は、ごみの減量化や再資源化を進める3R（リデュース、リユース、リサイクル）に関する理解を深め、循環型社会形成を目指すため、福井県、環境省、中部地方環境事務所、3R活動推進フォーラムの主催で、平成27年11月21日に福井県生活学習館で開催されました。

第1部の式典では、主催者および来賓挨拶に続き、平成27年度の循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰（14企業、5団体、2個人）と3R促進ポスターコンクール最優秀賞表彰（4部門4名）が行われました。

第2部の記念シンポジウムでは「食品廃棄物をはじめとした3Rの取組について」をテーマに、講演、特別発表、パネルディスカッションが開催されました。

（1）講演「持続可能な社会を目指して」

ユニグループ・ホールディングス㈱ 執行役員 グループ環境社会貢献部長 百瀬則子氏から、流通大手として取り組む3R活動の実践例として、レジ袋有料化や未利用食品からのたい肥製造などを紹介いただきました。

（2）特別発表「食べきり寸劇」

平成25年から県内各保育園で実施している「食べきり寸劇」を県連合婦人会のみなさんが発表しました。ユーモアを交えながら、親子が食べきを約束するストーリーです。また、後半は「食べきり運動のうたとダンス」を客席の参加者と婦人会のみなさんが一緒に踊り、会場が熱気に包まれました。

（3）パネルディスカッション「全国食べきりサミット～おいしいふくいを食べきろう～」

食品ロスの現状を環境省が説明後、「食べきり運動」を実施している5自治体（福井県、埼玉県、山口県、大分県、長野県松本市）が具体的取組みを発表しました。さらに、本県が提案した「食べきり運動」実施自治体のネットワーク形成について、参加県から合意が得られるとともに、環境省、コーディネーターを務めた崎田裕子氏からネットワーク化によりさらに「食べきり運動」が発展することに期待が寄せられました。



県連合婦人会「食べきり運動のうたとダンス」



全国食べきりサミット

大会に合わせて関連イベントを開催しました。

（1）施設見学会 池田町「あぐりパワーアップセンター」

池田町全世帯の約5割の家庭から排出される生ごみと牛ふん、もみ殻から堆肥を製造している施設を希望者が午前中に見学しました。製造した堆肥は町内の農家が使用し、農産物を生産するという循環ができています。

（2）親子で体験！3Rイベント（福井県主催）

生活学習館3階では、体験しながら3Rを学ぶ親子イベントを開催し、終日多くの家族連れが、食べきりレシピ教室、牛乳パックや食品トレイを用いた3R工作教室などに参加しました。また、古本市、おもちゃの病院、食べきり寸劇や紙芝居も併せて実施し、県がこれまでに実施してきた3R推進活動に触れられる機会となりました。

3 「スポーツGOMI拾い大会」の開催

平成30年の「福井しあわせ元気国体・大会」開催に向け、ゴミのないきれいな福井県をめざして「スポーツGOMI拾い大会」(下記参照)を実施しています。

県内では平成26年度に初めて小浜市で開催し、平成27年度は県内6か所で実施しました。



大野大会の参加者のみなさま

平成27年度実施一覧

	開催日	開催市町	開催場所
第1回	平成27年10月18日(日)	福井市	JR福井駅周辺
第2回	平成27年10月24日(土)	大野市	真名川河川敷
第3回	平成27年11月8日(日)	越前市	日野川河川敷
第4回	平成27年11月29日(日)	若狭町	食見海水浴場
第5回	平成28年3月5日(土)	敦賀市	鞠山・田結海水浴場
第6回	平成28年3月13日(日)	坂井市	三国サンセットビーチ

各回とも、「ゴミ拾いはスポーツだ!」のスタート発声とともに競技を開始し、参加者は空き缶やたばこの吸い殻などを分別しながら拾いました。

参加チームは、家族、職場、スポーツ少年団など様々で、幅広い年齢層の方々が楽しくゴミ拾いをしていました。



オリジナルタオルをプレゼント



福井大会スタート時の様子

スポーツGOMI拾い大会とは

チームで力を合わせ、制限時間内に決められたエリア内でゴミを拾い、その質と量をポイントで競い合う、子どもから大人まで年齢を問わずにできる競技です。

ゴミの質によってポイントが決められます。

例：燃えるゴミ100g→10pt 燃えないゴミ100g→5pt など

